

2009年度学生による授業アンケート結果と授業改善の取組みについて

大学FD委員会

本学では、演習・講義を含む学部開講科目を対象として、学生による授業アンケートを実施しています。その集計結果は、データ化して記述式回答と共に担当教員にフィードバックし、授業改善のための資料として活用しています。また、これと同時に全学的に統計資料の作成を行い、組織的な授業改善にも取り組んでいます。今回は、2009年度に実施したアンケートの結果概要とこれを受けた大学としての授業改善の取組についてお知らせします。

1. アンケート概要について

前期は2009年7月1日～7月30日、後期は2009年12月14日～2009年1月30日の期間に実施し、実施科目数は前期：693科目（講義：282、演習：411）、後期638科目（講義232、演習：406）でした。アンケートは無記名式とし、担当教員が直接配布や回収を行うことは避け、取りまとめの学生を指名し、指名された学生が代表としてアンケートの配布・回収を行い、所定の提出場所に持参することとしています。設問は、選択式（OCR）と記述式からなり、講義・演習共に選択式（OCR）は共通設問の（1）～（17）と、担当教員が独自に内容を設定する（18）～（20）に分かれています。記述式は（21）「この授業で良かった点を書いてください」、（22）「この授業で改善してほしい点を書いてください」、（23）「この授業で扱ってほしい内容について書いてください」という3つの共通設問と担当教員が独自に内容を設定できる設問1つで構成されています。選択式（OCR）については、各設問に対して、該当する1つの回答を選択する形式となっており、2つ以上選択した場合又は何も選択されていない場合には無効回答として処理され、集計の対象から除外されます。評定平均値は、回答のA～Eの選択肢に対してA=5、B=4、C=3、D=2、E=1のポイントを乗じ、各設問における合計ポイントを有効回答数で除した数値（小数点以下第三位を四捨五入）です。

2009年度授業アンケートの集計結果の詳細は別表のとおりですが、全体として今回のアンケート結果からは次のような傾向を確認することができます。

- ・「総合的な満足度」は講義で前期が4.19、後期が4.26、演習で前期が4.31、後期が4.37であり、学生の授業に対する満足度は高いこと。さらに、こうした傾向は単年度のものではなく、授業アンケートで総合的な満足度に関する調査をはじめた2007年度から継続して確認されている点であること。
- ・一方で、相対的に評価の低い項目としては、講義科目における授業外学習に関する設問（「この授業のために授業時間外の学習（予習・復習・課題等）を行った」、「この授業の内容について自分自身で学習するための方法が把握できた」）であること。ただし、FD委員会等でこうした状況を共有していることもあり、状況としては改善※されていること。

※2007年度前期：3.53 → 2008年度前期：3.58 → 2009年度前期：3.85

2. 授業改善に向けた取組

本学では、2007年度に現在の設問項目で学生による授業アンケートを開始し、2009年度までに各学期に合計6回のアンケートを実施しました。アンケート集計結果については、年度毎に大学FD委員会で傾向等について分析を進め、結果を大学公式サイトや学内広報誌（キャンパスニュース）で公表しています。2007年度から2009年度までの統計資料等からは、大学全体の傾向については大きな変化がみられないこと、また、課題であった授業外学習の取組状況についても改善の方向にあることが確認されています。

一方で、アンケートは学期末に実施され、集計結果は次学期はじめに担当教員に配布されるため、回答した当該授業履修学生には直接その結果等が還元されないなど、個々の授業の改善という面では必ずしも十分とは言えない状況もありました。また、授業内に実施することで授業時間の圧迫やアンケート実施に関わる作業量増大への対応も懸案となっていました。特に回答した学生にその成果が還元されない現状の仕組みについては、FDに関する学生の座談会でも、多くの学生から改善要望として挙げられた内容でした。

こうした状況を踏まえ、2010年度より次の点について実施方法等を見直すこととしました。

1. 実施時期を学期末から授業中間に変更すること

アンケートに回答した学生にその成果が直接還元することを可能とするため、学生のアンケート回答期間を学期の中間となる7週目に設定し、必要に応じて当該授業の後半に反映可能な形にします。

2. OCRシートからウェブ入力形式とすること

従来のOCRシートを利用した形式では、授業中に回答及び回収を行うため、回収率の高さなどのメリットもありましたが、授業時間の圧迫や集計に多大な労力や時間を要しました。今回、中間でのアンケートとすることから、リアルタイムに集計結果を把握する必要もあり、ウェブベースのシステムを採用します。

3. 教員から学生へのレスポンスを行うこと

中間アンケートとして実施することから、教員は次のいずれかの方法で履修学生へのレスポンスを行うこととします。

- ① システム上に設けられている授業ごとの掲示板（非公開）を利用する。
- ② 授業時間内（8週目をめど）に対話の時間を設ける。
- ③ 授業内で担当教員がプリントにまとめて配布する。

4. アンケート設問内容の見直しを行うこと

大学の授業は学生が授業に臨む態度や姿勢が重要ですが、学生自身がその気づきを得られるような設問とします。

また、2010年度には授業アンケートのほかにも、大学教育の質保証やカリキュラムの体系性といったより本質的な課題も視野に入れ、FD活動を積極的に展開していく予定となっています。

以上

【講義科目】 前期(履修者:16,360、回答者:10,949)／後期(履修者:13,866、回答者:8,173)

設問文	前期			後期		
	全体平均点	問16との相関係数	標準偏差	全体平均点	問16との相関係数	標準偏差
1 授業の進み具合(進行速度)は適切だった。	4.35	0.674	0.807	4.41	0.694	0.765
2 各回の授業内容の量は適切であった。	4.33	0.684	0.821	4.40	0.701	0.784
3 この授業を受講した結果、この分野(領域)への関心が深まった。	4.28	0.747	0.909	4.36	0.751	0.860
4 授業に集中できる雰囲気を保つ配慮がされていた。	4.20	0.620	0.953	4.27	0.631	0.915
5 授業の開始時間、終了時間は守られていた。	4.46	0.513	0.802	4.49	0.560	0.778
6 テキスト、参考文献、配布資料等の使用は適切であった。	4.35	0.662	0.834	4.40	0.685	0.823
7 板書や視聴覚教材(スライド、オーディオ機器、PC、楽器等)の利用は適切であった。	4.26	0.623	0.902	4.33	0.645	0.870
8 教員の授業に対する意欲・熱意を感じられた。	4.50	0.667	0.756	4.55	0.677	0.722
9 教員の説明はわかりやすかった。	4.31	0.765	0.912	4.37	0.777	0.888
10 教員の声の大きさなどは適切で聞きやすかった。	4.45	0.642	0.826	4.49	0.677	0.800
11 成績評価の基準は明確であった。	4.08	0.598	0.934	4.18	0.633	0.897
12 シラバス(授業内容や課題)は受講に役立った。	4.09	0.649	0.934	4.21	0.681	0.887
13 この授業のために授業時間外の学習(予習・復習・課題等)を行った。	3.77	0.513	1.123	3.88	0.528	1.071
14 この授業の内容について自分自身で学習するための方法が把握できた。	3.85	0.655	1.046	3.97	0.677	1.000
15 この授業で使う教室の大きさ、設備、備品等は適切だった。	4.27	0.612	0.907	4.26	0.610	0.953
16 *総合的に判断して、この授業の満足度を示してください。	4.19	/	0.916	4.26	/	0.888
17 この授業におけるあなたの出席状況を示してください。	4.11	0.089	1.055	4.00	0.480	1.054

【演習科目】 前期(履修者:8,781、回答者:7,196)／後期(履修者:7,606、回答者:6,011)

設問文	前期			後期		
	全体平均点	問16との相関係数	標準偏差	全体平均点	問16との相関係数	標準偏差
1 授業の進み具合(進行速度)は適切だった。	4.36	0.738	0.844	4.43	0.732	0.806
2 各回の授業内容の量は適切であった。	4.38	0.721	0.839	4.43	0.740	0.805
3 この授業を受講した結果、この分野(領域)への関心が深まった。	4.35	0.733	0.877	4.43	0.763	0.837
4 授業の開始時間、終了時間は守られていた。	4.53	0.541	0.783	4.54	0.593	0.768
5 テキスト、参考文献、配布資料等の使用は適切であった。	4.43	0.663	0.797	4.49	0.698	0.766
6 授業の人数は適切であった。	4.54	0.525	0.730	4.6	0.591	0.686
7 少人数授業の利点を生かした授業展開がされていた。	4.42	0.639	0.856	4.51	0.706	0.789
8 教員の授業に対する意欲・熱意を感じられた。	4.55	0.716	0.765	4.57	0.746	0.742
9 教員の説明はわかりやすかった。	4.43	0.773	0.867	4.46	0.800	0.855
10 教員の声の大きさなどは適切で聞きやすかった。	4.56	0.670	0.756	4.58	0.706	0.756
11 教員は学生の質問や学習上の相談に応じてくれた。	4.38	0.691	0.853	4.43	0.724	0.841
12 成績評価の基準は明確であった。	4.17	0.631	0.920	4.28	0.679	0.883
13 この授業のために授業時間外の学習(予習・復習・課題等)を行った。	4.26	0.493	0.907	4.34	0.533	0.858
14 この授業の内容について自分自身で学習するための方法が把握できた。	4.18	0.681	0.912	4.29	0.712	0.864
15 この授業で使う教室の大きさ、設備、備品等は適切だった。	4.45	0.610	0.791	4.5	0.626	0.773
16 *総合的に判断して、この授業の満足度を示してください。	4.31	/	0.898	4.37	/	0.877
17 この授業におけるあなたの出席状況を示してください。	4.00	0.071	1.108	3.9	0.083	1.104

【相関係数】

相関係数とは2種類のデータ間での関連性の強さを表す数値です。今回の帳票では、問16「総合的に判断して、この授業の満足度を示して下さい」と各設問の関連性を表します。数値は1.0に近いほど両者には強い関連性が認められることを意味しています。

【標準偏差】

標準偏差とは平均値がどれだけ回答の分布を代表しているかを示す指標です。標準偏差が小さいほど回答が平均の近くにまとまっており、標準偏差が大きいほど回答が平均から散らばって分布していることを示します。